

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

当科では扁桃炎から人工内耳や頭頸部癌に至るまであらゆる耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患を治療しています。

私たち専攻医の主な業務は、週に1回から2回程度の外来診察、手術の執刀、助手、術後病棟管理、救急対応などです。

当院での研修の特徴は、実践重視型であるということです。つまり、どんな複雑な症例や難しい手術であっても上級医と共に診療にあたり、上級医の指導の下、適宜手術を執刀し、段階的に、そして確実に手術手技をはじめとした技術、知識を蓄積していくことができます。

当科では手術症例が非常に多く、週に5日の手術日が設けられており、我々専攻医も週に3日から4日、手術症例を担当します。1日に2件から3件の手術を担当することもあり、多くの手術症例を経験できます。

専攻医は、4月に当科に着任すると、上級医の指導の下、扁桃摘出や気管切開、リンパ節生検の執刀にはじまり、鼓室形成術や人工内耳埋込術をはじめとした耳の手術、頭頸部領域の良性腫瘍や悪性腫瘍の切除術、鼻腔腫瘍やポリープの内視鏡下手術などを段階的に適宜執刀していきます。上級医の指導があるので、安心して多くの種類の手術を経験することができ、手技が“自己流”になることなく、確実な、そして正しい手技を身につけることができます。

外来診察では、初診と自らが手術を担当した患者さんの再診を行います。上級医の指導の下、早い段階から外来を任せてもらえるので、術後の患者さんだけでなく、急性扁桃炎やアレルギー性鼻炎など一般的な耳鼻科疾患も数多く経験できます。

救急診療においては、急性喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍、咽頭異物といった様々な耳鼻科救急疾患を数多く経験でき、気道緊急に対する緊急気管切開を上級医とともに行うなど、あらゆる救急疾患の対応を身につけることができます。

また、当科では臨床だけでなく、学会発表や論文執筆も盛んに行っているため、希望すれば研究に関する手厚い指導を仰ぐことができます。実際に私も、学会発表や論文執筆にも興味があり、全国学会での発表も行わせてもらっています。専攻医3年目には海外の国際学会で発表することができ、臨床のみに偏ることなく、研究も含めた幅広い研修を行うことができます。

私は当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で1年あまりの研修を行ってきましたが、非常に多くの症例を経験することができ、日々自らの手術手技や臨床技術が向上していくことを実感でき、大変充実した毎日を送っています。当科は救急疾患から人工内耳や頭頸部癌に至るあらゆる症例に対して治療を行っておりますが、当科の雰囲気はとても穏やかでアットホームです。耳鼻咽喉科・頭頸部外科のあらゆる分野の専門の上級医が在籍しており、内科や外科など他の診療科との垣根も低く、気軽に相談ができるため、日常診療で見つけた疑問を解決し、知識を増やしていくことができます。

当科のような症例が豊富で、指導体制が非常に手厚い環境で、専攻医としての第一歩を踏み出すことは、大変有意義であると考えます。

当科での研修に興味がある方は、是非一度当科に見学に来て下さい。私がここに書いた内容を身をもって実感していただければと思います。